

ブドウ「オーロラブラック」の芽座を維持するための2芽せん定とシアナミド処理

表1 せん定方法の違いが「オーロラブラック」の不発芽に及ぼす影響

年次	せん定方法	不発芽の発生率 ^z (%)
2018	2芽せん定	2.8
	1芽せん定	15.0
2019	2芽せん定	2.0
	1芽せん定	9.6
分散分析 ^y		
せん定方法		**
年次		ns
交互作用		ns

^z新梢の発生がなかった芽座の割合
^yアークサイン変換後の分散分析により**は1%水準で有意差あり。nsは5%水準で有意差なし

表2 シアナミド処理が「オーロラブラック」の不発芽に及ぼす影響

処理区 ^z	不発芽の発生率 ^y (%)
シアナミド	0.3
無処理	2.0
有意性 ^x	**

^zシアナミド区はCX-10の10倍液（展着剤なし）をハndsプレーを用いて芽座に散布した。
また、いずれの区も2芽せん定を行った
^y新梢の発生がなかった芽座の割合
^xアークサイン変換後のt検定により、**は1%水準で区間に有意差あり

開発のねらい

岡山県育成の「オーロラブラック」は、大玉で着色が良く、日持ちのよい品種ですが、不発芽による芽座の欠損がみられます。芽座の欠損が多いと葉面積不足や収量減少の原因となるため、対策技術を確立しました。

新技術の概要

- 2芽せん定を行うと、芽座当たりの不発芽の発生率は、慣行の1芽せん定より明らかに少なくなりました（表1）。
- さらにシアナミド処理を行うと、芽座当たりの不発芽の発生率は無処理に比べて少なくなるため、芽座の確保に有効です（表2）。

活用場面

本技術の導入により「オーロラブラック」の安定生産が可能となり、無核化肥大処理と併せると、大玉で着色の優れた果実を生産することが可能となり、農業所得の増加に大きく貢献できます。